

4 月上旬の高温等により、生育は昨年より 5 日程度早い状況です。このまま経過すると、南水の開花始めは、南部地帯で 4 月 18～20 日頃、北部地帯で 4 月 23～25 日頃と予想されます。開花時期は、栽培地帯や土壌条件によっても異なりますので、各園地の生育状況を確認し適期作業、適期の薬剤散布に努めてください。

## ◆ 和梨の定期防除

【年度別の南水開花状況】（調査地点：田麦沖）

年度	平年	H24	H25	H26	H27
開花日	4/27	4/29	4/25	4/26	4/23～25 頃



### 開花期の薬剤散布（南水等が 1～2 分咲いた頃）

今回の防除は、越冬している黒斑病やハマキムシ、シンクイムシ類の初期感染や発生密度を下げるうえで重要です。遅れずに散布してください。

散布時期：4/18～4/25 頃（目安となりますので各園の生育をよく確認してください）

散布薬剤

水	100ℓ
展着剤	20ml
サムコルフロアブル 10	20ml（前日、3 回）*注意事項③、④参照
ポリオキシソ水和剤	100g（7 日前、5 回）

対象病虫害：黒斑病、黒星病、ケムシ類、ハマキムシ類

散布量：10a 当たり 350ℓ

◆ 散布日：4 月 日

◆ 散布量： ℓ

～ 注意事項 ～ \*必ずお読みください。

- ① 訪花昆虫保護のため指定薬剤以外は使用しない。
- ② 収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意する。
- ③ 開花前が高温で、アブラムシ類の発生が見られる場合は、ウララ DF2,000 倍（14 日前、2 回）を加用する。
- ④ サムコルフロアブルに代えてロムダンフロアブルの 3,000 倍（7 日前、3 回）でもよい。
- ⑤ 不明な点・詳細については、営農センターまでお問い合わせください。

◆ 西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。

## ◆ 西洋梨の定期防除



ラフランス生育状況調査（田麦）

	平年	H24	H25	H26	H27
開 花	4/27	4/30	4/26	4/27	4/23～25

開花期の薬剤散布（ラ・フランス等が1～2分咲いた頃）

- ◆ 散布日：4月 日
- ◆ 散布量： リットル

散布時期	4/18～25 頃（目安となりますので各園の生育状況をよく確認してください）
散布薬剤	水 1000 当り 展着剤 10 ml サムコルフロアブル10 20 ml（前日、3回） *注意事項④参照 トップジンM水和剤 100 g（前日、6回）
対象病害虫	腐らん病、輪紋病、(胴枯病)、ケムシ類、ハマキムシ類
散布量	10アール当り：300 リットル
注意事項	① 訪花昆虫保護のため指定薬剤以外は使用しない。 ② 収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意する。 ③ 開花前が高温で、アブラムシ類の発生が見られる場合は、ウララ DF2,000 倍（14 日前、2回）を加用する。 ④ サムコロアブル 10 に代えて、ロムダンフロアブル 3,000 倍(7 日前、3 回)でもよい。 ⑤ 赤星病の発生園では、オンリーワンフロアブル 2,000 倍(前日、3 回)を加用散布する。 ⑥ 不明な点・詳細については、営農センターまでお問い合わせください。

### ◆ 4月中下旬の重点作業 \*必ずお読みください。↓

- ① せん定後の切り口の保護と、腐らん病の削り取り処理、切除及び塗布  
腐らん病予防、枯れ込み防止のため、切り口等には至急トップジンMペースト等を塗布する。  
腐らん病治療として患部の削り取りを行い、トップジンMペースト等を塗布する。
- ② 防霜資材の準備  
凍霜害の発生が心配される。早めに防霜資材の準備をする。
- ③ 側枝の誘引  
普通樹の場合、主枝候補枝をオーロラ 45 度、ラ・フランス 30 度に誘引する。わい台樹は側枝を水平誘引する。
- ④ 支柱やトレリスへの主幹の固定 \*ゆるんだり切れたりしていないか、よく確認する。  
樹が揺れると根が傷み生育が悪くなるので、主幹はしっかりと固定する。

- ◇ 結実安定対策
  - ◆ オーロラ等結実の安定しない品種は、必須作業となります。人工受粉を徹底してください。
  - ◇ 摘花(摘蕾)について
  - ◆ すべて果そうごとの摘蕾・摘花として一輪摘花はしない。  
⇒摘花する果そうは・・・1 年枝(腋芽)の花、主幹部に直接着花したもの、遅咲きの貧弱な果そう、目通り以上で側枝の直下(真下)の果そう
  - ◆ 目通り以下の花は、凍霜害が心配されるので多目に残すようにする。(極端に弱い果そうのみ実施する)